



八王子市に  
赤ちゃんの  
いのちを守る

# NICUの 復活を

小児医療への  
都の責任果たせ



初めての  
本会議  
質問

2010年に都立八王子小児病院がなくされて以降、八王子市にはNICU（新生児集中治療室）がなくなりました。そのため都立小児総合医療センター（府中市）のNICUの入院実績は地元府中市に次ぎ八王子市が2位です。

日本共産党都議のアオヤギ有希子は、2月24日都議会本会議の初質問に立ち、NICUを復活させ、小児救急医療を充実させるよう都に求めました。

八王子市と二つの中核病院がこの間、医療についての協議を始めたことから、都も加わるよう要求。小池都知事は、「限られた医療資源を最大限活用し、周産期医療体制の充実強化に努めていく」と答え、中村倫治福祉保健局長は、2008年に都と同市で取りまとめた協議で「将来的にNICUを整備する際には、市と都が必要な支援を行うことについて検討していくとした」と答えました。

小児総合医療センターだけでは不十分です。都は、統廃合の誤りを認め、八王子をはじめとする多摩地域の小児医療充実の責任を果たすべきです。



## 23区に偏在するNICU

多摩地域	7カ所（都立小児総合24床など） 合計 66床
23区	26カ所 合計 290床

23区に比べて、多摩地域のNICUは拠点も病床数も圧倒的に少なく、赤ちゃんのいのちを守るにはあまりに不十分な体制です。

コロナ患者を一番多く受け入れている

都立・公社病院の  
「独法化」強行、許せない！

小池都知事は都立病院条例の廃止案の提出を強行し、自民党、都民ファースト、公明党などの賛成で可決されました。「独法化」は、これまでの周産期・小児救急、障害、難病、精神、コロナなど多くの医療従事者を必要とする「不採算」医

療を切り捨て「稼ぐ医療」へ転換するものです。「統廃合」・「民営化」へつながります。これでは、10年前の統廃合で起きた「医療不足」がさらに悪化してしまいます。都立・公社病院の「独法化」は中止を！

# 現場の声を

# 都政に届け、対応迫る！

アオヤギ質問



「学びは生きるエネルギー」

## 小児がん等の病弱児の学びの拡充を

病気になった子どもたちはどこで学んでいるかご存じでしょうか？

全国で見ても病弱児が学ぶ場が不十分で、「学びの空白」が起きていることがわかっています。都内には特別支援学校の病弱児分教室が5

つの病院内に設置されていますが、都立小児総合医療センター内の分教室だけ高校生が通える高等部がありません。日本共産党都議のアオヤギ有希子は、高等部設置を求めました。

国立がん研究センター内の分教室で学んだ青年は、「死の恐怖で混乱する中、先生に何度も救われ、人間らしさを取り戻した。もっとこういう場を増やしてほしい」と声を遺し24歳の若さで亡くなりました。

学びは生きるエネルギーになります。引き続き高等部設置を求めています。



都立小児総合医療センター内の病弱児分教室を視察

アオヤギ質問



貴重な自然を守れ

## 残土持ち込みに規制を

日本共産党都議のアオヤギ有希子は初の一般質問で、八王子市で建設残土により里山の自然が壊され、住民の安全が脅かされている現状を取り上げ、熱海市の盛土崩落事故をうけて行われた盛土の総点検の結果

について、是正措置が必要とされた箇所を具体的に公表するよう、他県の公表事例も示して求めました。

また、残土を持ち込む「八王子スポーツパーク建設事業」の問題点を指摘。都は審議会で事業の収支計画の妥当性や盛土の安全性について専門的見地から議論が行われていると答弁しました。

小池都知事は「東京に残された貴重な自然を保全する」と答えました。



八王子スポーツパーク建設事業(川町)の現場を視察  
右がアオヤギ、隣は尾崎都議

## 都民と共産党都議団の運動で 都政が動いた！

結婚の自由をすべての人に

### パートナーシップ制度が 東京都で実現！

性的マイノリティの当事者の皆さんの運動が実り、都のパートナーシップ制度が今秋からスタートする予定です。八王子市議会でも2018年「同性パートナーシップの公的承認に関する請願」が全会一致で可決され、実施を求めてきました。東京都の人口は1400万人。日本の人口の約10分の1がパートナーシップ制度の下で暮らすことになります。

さらに、当事者の皆さんの子どもも家族として認めてほしいという願いを実現するファミリーシップ制度を求めています。



新型コロナウイルス対策

### 定期検査を学校・保育園 高齢者・障害通所施設に拡大

学校や保育園、高齢者・障害者の通所施設などの教職員に、定期的な検査(抗原検査)が拡大、開始されています(要申し込み)。また、学校では教育活動を保障するため、陽性者が出た時のクラス全体の検査や、修学旅行、部活動大会の前後のPCR検査が実施されています(各教育委員会が申し込み)。

さらに子どもたち、施設の利用者の皆さんの定期的な検査を求めています。

都民全体を対象に、無症状感染の「不安のある方」の無料のPCR検査も実施中です(濃厚接触者は保健所・医療機関で)。

PCR検査等無料化事業 東京都

